

TFU ALUMNI BULLETIN

東北福祉大学同窓会 会報



2011ゴルフ部報告会に600人が集まる
卒業生、現役の活躍に励ましのエール

東日本大震災の逆境をはねのけゴルフ部が輝かしい足跡を残した。「2011東北福祉大学ゴルフ部報告会」が一月二十日、仙台市の江陽グランドホテルで開催され、招待者ら約六百人が参加した。



二〇一一年の活躍は目覚ましく、団体戦で男子が六月の全対抗戦、十月の信夫杯は男女で制した。個人では松山英樹君(二年)がマス

北海道支部の役員が懇談会に参集

北海道各支部の役員が一堂に会するという画期的な懇談会が十一月五日(土)、札幌市のホテルポ



懇談会で熱い議論



菅本会長、萩野学長、阿部事務局長(左から)

札幌地区が主体となり、空知地区、釧根地区、旭川地区、函館(道南)地区、そして新たに結成を

お手柄! 女子ソフトボール部に消防署から感謝状



感謝状を受ける酒井主将

女子ソフトボール部が消防署から感謝状を贈呈された。「火災をいち早く発見し、一致協力して迅速的確な通報と付近住民の避難誘導及び延焼拡大防止に備えた」として、一月二十三日、仙台市青葉消防署内で鳥山啓一署長から本学女子ソフトボール部の酒井梨花主将と第一発見者の五味彩華副主将(ともに社福三年)に感謝状と記念品が贈呈され

乾杯の音頭は東北ゴルフ連盟の丸森伸吾理事長が取った。吹奏楽部の演奏に乗り、なごやかに進行した。卒業生プロゴルファーが出品したチャリティーオークションでは池田選手と星野英正選手が司会し、ゴルフクラブ一式や佐伯選手提供の優勝ワインなどが人気を呼んだ。この日の会費の一部と合わせ、収益金全額が義援金として東

基学長をはじめ、菅本昭夫同窓会会長、阿部靖彦事務局長、磯海千草事務局長が参加した。初めに札幌地区同窓会副会長の浜田悟氏(昭49社福卒)、清水博氏(昭50社福卒)から歓迎の挨拶が述べられた。次いで、萩野学長と菅本会長が東日本大震災による本学の現状を報告し、被災学生が無事卒業できるよう義援金のお願いをした。

心の復興コンサート第二弾開催



全員でふるさとを合唱

大友さんが最優秀論文賞



平成22年度通信教育部社会福祉学科卒業生 度通信教育部社会福祉学科卒業生 大友浩さんが、宮城県現職教員が執筆する論文(教育公務員弘済会宮城支部主催)で最優秀論文賞を受賞した。応募254論文中トップに挙げら

通信教育部からのお知らせ

精神保健福祉士取得希望者の実習免除制度開始
24年度の入学から社会福祉士同様に精神保健福祉士取得希望者も、入学前に1年以上相談援助の実務経験者は、実習科目免除で受験資格が取得できます。希望者は通信教育部募集要項をお取り寄せください。

加した。最後に演奏者と聴衆が一緒になって「ふるさと」を合唱した。現場主義が基本
手前味噌ながら3・11東日本大震災の発生から今日までの本学の対応は十分評価に値すると言えよう。発生翌日には早くも「ボランティア会」を立ち上げ、被災地の情報収集に全力を注いだ。12月末時点で学生、教職員延べ三千三百人が16の被災市町村に赴き、復興支援にあたった。本学は四学部に九学科を擁し、福祉・医療・教育など学科の特色を生かした学生、教職員がチームを組み、大きな力を発揮した。▼阪神大震災(95年)以来、日本海軍重油流出事故(97年)、那須・福島集中豪雨(98年)、宮城県北部地震(03年)、新潟県中越地震(04年)、岩手・宮城内陸地震(08年)、秋田角館大雪被害(11年)など大規模災害が発生するたびに、復旧・復興支援に赴いてきた。今回こうしたボランティアの伝統が生きたことが実証された。▼東日本大震災前に印象に残った出来事がある。昨年2月、秋田県角館が5年ぶりの大雪に見舞われた際、大学当局から「どれだけか、現地にいかねばならないことがあるはずだ」との指示が出た。現地に行つたところ、高層者が屋根の雪下ろしや雪かきに難渋していることを社会福祉協議会の職員から聞き、後日、効率的な支援活動に結びつけることができた。あらためて現場主義が基本であることを痛感した次第である。▼翻って東日本大震災での政府、役人の対応はどうか。一体、どれだけの人々が被災地に向いて現場をつぶさに見たと見えるのだろうか。中央にいて椅子に座って、何が分かるのかと疑問に思うのは私一人ではないはずだ。ボランティアに取り組み学生の真摯な姿とあまりの対照に、怒髪天をつく思いである。(国見 太郎)

平成22年度卒業式の内
東日本大震災の影響により中止になった「平成二十二年卒業式」が、三月二十四日(土)午後一時から音楽堂やきホール(国見キャンパス)で挙行されます。卒業から早一年になりますが、あら

同窓会便り ①

人物登場

光星学院高校野球部激励会 仲井宗基氏(青森県)

平成二十三年春の選抜高等学校野球大会に東北代表二校のうちの二校に選ばれた光星学院高等学校・硬式野球部を激励しようと東北福祉大学の卒業生が二月二十一日、八戸市の「ひさご」に集合した。

同校の監督には代々、東北福祉大学の野球部OBが就任。今回は、仲井宗基監督(平5社福卒)が率いており、頑張つて欲しいとの祈りと共に、二十二名のOBが集まり、応援することを誓った。

(社)射水青年会議所第七代理事長 野村竹伸氏(富山県)



野村氏

平成二十三年は、私にとって最も忘れられない一年となった。卒業後、故郷の富山に帰ってから早十五年。家業を継ぐ傍ら地元青年会議所に所属し、地域のために様々な活動を続けてきたが、本年度(社)射水青年会議所の第七代理事長に就任させていただいた。

昨年は東日本大震災があり、東北地方をはじめ、日本にとって大変な年であった。私は学生時代を過ごした仙台が第二の故郷と思っている。加えて家内が福島県出身ということもあり、震災に関しては他人事ではなく今も心を痛めている。青年会議所の理事長として、一人の人間として、居ても立ってもいられず、少しでもお役に立ちたくボランティア活動にも行った。この目で見た悲惨な現状は正直、実際に見なくては分からない

福卒)も応援にかけつけ旧交を温め合いながら、歓談は三時間以上にわたった。

なお、同校は十一月の明治神宮野球大会で初優勝を飾り、東北に選抜の代表権を一つもたらす活躍を見せた。もちろん本番では日本一をめざす。

情報提供：青森県同窓会事務局



左から3人目が仲井監督

部分もあった。

印象的だったのは懸命に生き、復興しようとする明るく前向きな姿。この衝撃と感動は忘れられないことではない。そして逆に学ばせていただいたことに感謝し、一層「わがまち」への想いは強くなった。

私が昨代理事長として掲げさせていたいただいたスローガン「愛く大切な人の笑顔のために」は自分を含め世界中の人に捧げたメッセージである。全てのひと・もの・ことに対する愛、一団体の長として気づかせていただいたことを、心から感謝している。

東久彌宮記念賞

新潟県同窓会事務局局長三林けい子氏(昭59社福卒)が平成二十三年度「東久彌宮記念賞」を受賞した。

授賞式及び祝賀パーティーが四月十八日、東京・新宿の「京王プラザホテル」で行われボランティア(国際協力)部門での受賞の栄誉に輝いた。三林氏は宮様から授賞式で「世のため、人のためこれからは頑張ってください」とお言葉をいただきました。心に刻み、

後輩が活躍中！ 目黒隆氏(新潟県)

新潟県新発田市の小学校で校長を務める目黒隆氏(昭52産福卒)から嬉しい便りが同窓会事務局に寄せられた。以下に紹介。

【前段】
大学を卒業して、三十年以上になります。年に二回届く、同窓会報を楽しみに読んでおり、とても懐かしく感じております。せっかくの機会ですので、新潟県小学校で福祉大の後輩が頑張っていることをお知らせいたしたく、投稿します。

【本文】
一学期の終業式を終え、恒例の職員慰労会。今年赴任した教務主任と隣の席となった。

「七月の中旬に仙台に行つて今後の活動の励みにしたい」と抱負を述べた。

三林氏は、高校一年の時「新潟青年赤十字奉仕団」に入ったこと



三林氏

がボランティア活動のスタートで、団員の大人の影響を受けながら学び、体験してきた。

福祉大学に入ったのは自然の流れであり、卒業後は新潟市役所勤務の傍ら「KeepすまいるJAPAN」と「新潟市役所ボランティア研究会」の二つのボランティア団体の代表を務めている。

現在は①カンボジアの孤児院の専属ボランティア②「世界の子どもにワクチンを日本委員会」への支援③「ACジャパン」新潟での広報活動④「スペシャルオリンピックス日本・新潟」卓球プログラム代表として活動している。

「いつも優しい人たちに囲まれてきました。受賞は初めてなので

六魂祭見て来たよ」と私が話す

教務主任「私、大学が仙台です」
校長「エッ！ 私も仙台だよ」
教務主任「東北福祉大学です」
校長「私も福祉大だよ」
偶然にも、東北福祉大の同窓生が同じ小学校の職場で勤務となりました。

当校は後二年で閉校となります。木造建築でもともステキな学校です。教務主任として、学校の重要な仕事を担当するのは近恵子氏(昭59産福卒)。後輩が活躍する姿を見て、とても嬉しくなりました。

毎晩遅くまで仕事を精力的にこなす後輩の姿、私も校長として後輩に負けないよう頑張りたいと思います。

とても嬉しい。活動のモットーは『博愛』です」と述べ、ボランティア活動まつしぐら」はとどまる気配がない。実に活動歴三十年が過ぎていく。

数々の賞に輝く詩人 山形照美氏(栃木県)

詩人、山形照美氏(昭55社福卒)の原点は東北福祉大学時代の同人誌サークル「落書き研究会」だ。散文や詩、絵や漫画まで貪欲に描いていた。結婚後、詩誌の同人となり、平成八年に「均衡」や「不均衡」で宇都宮市民芸術祭大賞を授与。これは、同二十二年ブダベストでの日共国際

文化交流展で四〇〇点の中から「国際文化最高勲章」も受賞。同二十三年には沖繩でのアート・サミットに参加。記念誌は海外にも寄贈された。

東日本大震災の後、思いをメモにする中、栃木県詩人協会から四年ぶりに原稿依頼があり、詩(別掲)を発表した。

第二のふるさと仙台と日本中の被災者の皆様へ、鎮魂とエールを贈られたらと思ひ、この詩を寄贈できる機会を喜んでいく。合掌。

山形照美
【贅】——水の機・再び——
日本は再び世界のスケープ・ゴートとなった津波はTV画面から世界中に溢れ 水際ここにも打ち寄せ 引き潮に取り込まれた私は 未だに溺れ
それは亡くした命の叫びに 速く辿りつかぬ見送る者の無念と無力 何も手につかぬ程に私は 愛犬一匹の死と無気力に落ちる
尚も日々は多忙 画面には三羽羽の鶏の死と理不尽の意味も知らぬ飢えた牛の群れに追手耐える男 車を追う犬 身を切る車上に私家族を一度に失い 国連に赴く青年の髪には白髪が それ程の悲痛と 精悍な笑顔の強さ主に救われその救えなかつた骸に寄り添う犬私は 桜に涙し祭に泣き犬に号泣する

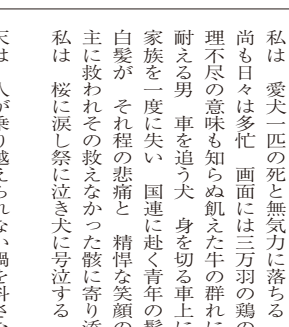
瑞宝双光章受章 神崎真一氏(大分県)

社会福祉法人大分県社会福祉事業団の事務局長、神崎真一氏(昭48社福卒)が、平成二十三年春の叙勲で瑞宝双光章を受章した。

神崎氏は昭和四十九年十一月一日付で採用されてから、社会福祉施設、知的障害者更生施設、救護施設に三十六年余月の永きに亘つて勤務。利用者起居を共にする直接支援業務への従事を基本とし、利用者の幸せを追求し続けてきた。平成十六年度から、管理職に任用され、平成十八年度から法人事務局に勤務しながら法人内全八施設及び一事業所の経営、運営に関する責任者を務める。この間、入所利用児・者の生活支援や自立援助の進展に尽力し、施設福祉の充実と、地域・在宅福祉の向上に貢献してきた。

受章の後もお意気盛んで、私も後輩職員をはじめ全職員の見本となっている。

情報提供：
穴井貴雄氏(昭57心理卒)
銅城義則氏(昭61社福卒)



神崎夫婦

「吉幸神桜子しあわせのベクトル」出版に寄せて 石川美恵子氏(栃木県)

「吉幸神桜子」が生まれたきっかけは一昨年の一月、こんな出来事からだった。ある情報誌に、執筆と出版のための説明会がありますという記事が載っていた。いつもの私だと興味があっても行動に移ることはないが、その時はなぜか迷わず行動

「吉幸神桜子」が生まれたきっかけは一昨年の一月、こんな出来事からだった。ある情報誌に、執筆と出版のための説明会がありますという記事が載っていた。いつもの私だと興味があっても行動に移ることはないが、その時はなぜか迷わず行動

皆さまのおかげで再開へ

3・11の東日本大震災から209日目の十月五日、芹沢銈介美術工芸館が、待望の開館にこぎつけた。館内の復旧作業が夏休み期間中かなり進み、当面は1階だけの展示ながらも、来館者を受け入れられるまでに態勢が整った。これまで温かく見守っていただいた皆さまに感謝申し上げます。

さて、三月三日までの企画展「芹沢銈介の作品〜四季を染める〜」では屏風や着物、暖簾、軸など約100点が展示されている。四季折々の草花、野山や海辺、旅先の風景など春夏秋冬の自然の移ろいが布地や和紙から伝わり、芹沢作品ならではの深々とした余情を感じさせる。

再開後、待ちわびたファンの来館。そして十一月には新聞社(福島民友社)が主催したツアーの一行四十人が訪れ、歓声に包まれた。



1階ロビーの様子

また、復活したミュージアムショップ内でのワークショップは再開から十二月までの火、土曜日に「額絵を作る」を開催。参加者は型紙を使い、合羽刷りをした作品を紙製のフレームに入れて、仕上げた。一月から三月三日までの火、土曜日は「糸雛を作ろう」に移行。麻糸や千代紙を材料に垂絵を合羽刷りして出来る。

学芸員が説明するギャラリートークも十月から一月まで毎月一回、計四回開催された。作品の持つ趣や芹沢銈介の思いが分かりやすく紹介された。

平成元年の開館以来初めて経験した臨時休館。再開に向けて一丸になった工芸館スタッフ一同は、皆さまの来館を待ちわびている。

また、復活したミュージアムショップ内でのワークショップは再開から十二月までの火、土曜日に「額絵を作る」を開催。参加者は型紙を使い、合羽刷りをした作品を紙製のフレームに入れて、仕上げた。一月から三月三日までの火、土曜日は「糸雛を作ろう」に移行。麻糸や千代紙を材料に垂絵を合羽刷りして出来る。

東北福祉大学 芹沢銈介美術工芸館 展示予定

年	2012年		2013年
月	4月4日(水)～7月7日(土)	8月6日(月)～10月8日(月)	1月15日(火)～3月2日(土)
展示内容	〈企画展〉北国の染織	〈特別展〉芹沢銈介展(巡回展)	〈常設展〉[1Fのみ] 猪口と飯茶碗

開館時間 10:00～16:30(入館は16:00まで)
休館日 日祝日、展示替え期間、入試期間
入館料 一般300円、学生200円(高校生以下、本学学生・教職員は無料)
〒981-8522 仙台市青葉区国見1丁目8番1号
東北福祉大学2号館内 TEL 022-717-3318
FAX 022-717-3324

同窓会便り②

総会の報告

北海道空知地区同窓会

北海道空知地区同窓会の第十回総会が八月二十七日(土)、美唄市のホテル美唄スエヒロで開催された。高橋将(すすむ)会長(昭41社福卒)が会長を務める美唄市社会福祉協議会の設立六十周年でもあり、記念シンポジウムを共催で行った。同窓生約四十人を含め市民ら合わせて約三百人が参加。記念シンポジウム第一部は元大リーグ、マリナーズの佐々木主浩氏(平元社福卒)と、ヤクルト、巨人、阪神で活躍した広澤克実氏がパネリストとして登場。大学からゴルフ部監督で総務部の阿部靖彦次長(昭59社福卒)と広報課の榎本等課長が加わった。高橋会長が「めったにない機会。楽しんでほしい」と開会あいさつを述べた。



パネリストの3人



空知地区同窓会 集合写真

質問コーナーでは小学生が佐々木氏に「今でもフットボールが投げられますか」と尋ねるなど微笑ましい光景が見られた。シンポジウムでは長蛇の列ができた。シンポジウム後、北海道の夫婦デュオ「ひで&たま」のフォークコンサートが行われた。

総会で高橋将(まさる)副会長(昭48社福卒)から支援金の提案がなされ、了承された。議案も拍手で承認された。

懇親会は及川憲仁氏(昭56社福卒)が進行役を務め、札幌、根釧、旭川地区から駆けつけた同窓会役員もあいさつ。互いに親睦を深めた。

富山県同窓会



富山県同窓会

平成二十三年度総会が九月三日(土)ウイング・ウイング高岡で開催された。

本田孝夫会長(昭42社福卒)の挨拶と小松洋吉教授の祝辞の後、大学同窓会事務局と更なる協力体制について活発な意見交換を行った。

記念講演では、小松教授が「新たな時代の新たな福祉」と題し、活発な討論が展開された。

その後の懇親会では、同窓生が互いに近況報告を行い、打ち解けた雰囲気の中、学生時代の話に花が咲いた。

新潟県同窓会



新潟県同窓会

九月十日(土)新潟市クロスバールにいがたで講演会・総会及び懇親会を開催した。

講演会は「東日本大震災と寄付支援」と題して大学から江尻教授(新潟県出身・新潟県同窓会顧問)が基調講演をした。第二部「企業の社会貢献について」では、富士ゼロックス新潟株元代表・神丸浩幸氏が講演。「さまざまな形で社会貢献活動に企業が関わり、市

民はそれを知ることにより一層協力体制が整っていくことが分かった」と参加者に好評だった。四十五人の同窓会員も年に一度の総会を再会の日として楽しみにしていた。また、同窓会事業として十月三十日(日)「みんな集まれ! 楽しく卓球で遊ぼう」を開催。大学から柴田教授と女子卓球部員が参加し、障害のある卓球愛好者三十人を交え、楽しい練習会となった。三林けい子、野村智宏(平15社福卒)本達也(平19社福卒)らの卓球部OBも集合し、にぎやかな会であった。

北海道札幌地区同窓会

北海道札幌地区同窓会第五回総会が十一月六日(日)、ガーデンシティ札幌で開催された。福岡政行特任教授の公開講演会には二百人を超える市民が集まった。「東日本大震災をとおしてみえてきたこと」と地域・社会、そして政治から」と題し、震災の生々しい実態を政治の視点から、時には笑

いを交えながら語った。参加費の一部が義援金として寄せられ、その目録が清水副会長から萩野学長へ贈呈された。その後、場所をホテルポルスタ札幌へ移し、六十人の同窓生が参加し、総会を開いた。新たに四人の幹事が加わり、決算報告並びに事業報告と予算・事業計画等を審議して承認された。懇親会では、参加者一人ひとりの自己紹介と卒業後の活躍が紹介

催しの報告

バレーボール部OB会

柏倉啓二氏(昭43社福卒)

九月十日(土)、仙台市のホテル白萩に細井計先生(昭43年々49年まで顧問)を来賓として迎え開催。出席者は宮城、埼玉、青森、岩手、山形から集まった。

懇親会での話題の中心はやはり東日本大震災。石巻市と栗原市在住者が語るマグニチュード9の揺れと想定外の津波の体験談は生々しかった。無事であったのが不思議なくらいで、震災後から現在までの六カ月の状況を、時に口から泡が飛ぶほど、体験者も聞く方も真剣になって話し、耳を傾けた。

大震災で結果的に無事であったためOB会も開催できたわけだが、復興もままならぬという時期に思い切つて集まり、心行くまで

児童福祉部OB会

大屋賢治氏(昭48社福卒)

十月八日(土)十八時から札幌市中央区のホテルノースシティで、遠くは兵庫県西宮市から駆け



細井先生(前列左)を囲んで

話せたおかげで胸のつかえが取れた気がした。一つ一つ貴重な話で、翌朝の食後のお茶の時間まで語り合い、一晩あつという間に時間が過ぎ、有意義な一時であった。遠方から来た参加者には感謝申し上げます。

つきた方や、初参加の七人を含め、合計三十一人が参加して開催された。渡部正一郎氏(昭45産福卒)の挨拶の後、千葉善祐氏(昭43社福卒)の乾杯の音頭で会食、歓談が始まった。恒例のスピーチで各自の近況や大震災時の状況等が報告された。今年度、定年・還暦を迎えられた五人の方に金メダルを贈呈。また、今般「愛護福祉賞」を受賞された林拓氏(昭44社福卒)

を皆で祝った。じゃんけん大会でのお土産交換後、部歌とも言うべき「母さんの歌」「山の子」を齊藤美枝子氏(昭42社福卒)・高浜弘子氏(昭44社福卒)のリードで皆で合唱。閉会には紙谷民治氏(昭46産福卒)の三本締めで幕を閉じた。



札幌地区同窓会 集合写真

栃木県同窓会

栃木県同窓会二〇一一年度総会が十二月十八日(日)、宇都宮市コンセーレで会員二十五人が出席し開催された。初めに池谷友夫会長(昭49社福卒)が「お陰様で十周年を迎えることができた。今後母校の発展と本県同窓会に寄与できるように皆さまのご協力をお願いしたい」と挨拶を述べた。協議では、二〇一〇年度事業報告、決算報告、二〇一一年度事業計画、



熱弁の福岡先生



栃木県同窓会

予算案が発表され、承認された。学生生活支援センター長兼法務室長の福岡哲也教授が講師を務めた。今回の東日本大震災においては、大学に対策本部を設置して支援活動を行ったことや、学生たちが取り組んだボランティア活動の様子について説明。卒業生の一人は「復興までにはまだ遠い道のりだ」と思うが、一日も早く安心して暮らせる地域社会が築かれることを痛感させられた」と話し、更なる母校の活躍を期待した。先生終了後、懇親会を行った。先生

開催予告

平成二十四年度総会

青森県同窓会

第十三回総会・親睦会

日・七月七日(土)

時間・十五時から

場所・三沢市

「ホテルグランヒルツたや」

国見会 退職者を励ます会

日・五月十九日(土)

時間・十九時から

場所・青森市「おいらせ」

連絡先・石田・井上(浅虫温泉病院内)

017175213004

事務局から

ホームページを開設しました

同窓会開催予告、同窓会開催報告等の配信をはじめ、氏名・住所変更の手続きができます。

なお、氏名・住所変更の際には会員番号が必要となります。(宛名氏名の右下に掲載)

ホームページアドレス

http://www.tfu.ac.jp/alumni

短信

寄稿して頂きました方々、ありがとうございます。スペースの関係上、記事をカットせざるを得なかったこと、ご了承ください。

なお、表彰・入賞した方、個人または同窓生に関するニュースは大歓迎です。よろしくお願ひします。

お問い合わせ先 同窓会事務局

TEL:022-2333-3111

FAX:022-2333-3113

メール:dousou@tfu-mail.tfu.ac.jp

お知らせ

予防福祉健康増進推進室では臨床美術士のサポートを行っています。通信コースも開設いたしましたので、詳しくは同封のパンフレットをご覧ください。



せんだんの里での演奏